



# Weekly Report

NO.1217 平成 26 年 1 月 28 日

## 小諸浅間ロータリークラブ

例会日/週火曜日 12:30~13:30 例会場/小諸市鶴巻 音羽  
事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 2 階  
TEL 0267-23-8125 FAX 0267-23-2788

### 2013-2014 役員

会 長 / 小林 秋生 副 会 長 / 渡辺 文夫  
幹 事 / 清水 良英 広報・情報委員長 / 矢島 栄一

ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を  
2013-14年度 第100回ロータリーテーマ



点鐘	小林 秋生 会長
SAA	依田 晋一郎 委員長
ソング	我らの生業
ゲスト	佐久長聖高校バスケット顧問 上田伸郎様

### 【会長挨拶】 小林秋生 会長

例年を超える寒さを感じながら新年を迎えたわけですが時間の経つのは全く早いもので、もうすぐ正月も終わり、来週は節分でございます。

今年は、これをやって、あゝして、こうしてという考えて見ましたが、結局は昨年をひきずって、また同じ生活を続けていくのでありましようが、しかし今年はいよいよこれからまだ長い時間があると考え、何か去年と違って見たい。そんな気分ではありませんが、何を違えるかが問題でもあります。

さて、そんなことで先日、本屋さんへ行きました。信州にゆかりのある郷土関係の書籍が置いてあるところでオヤツと思って取り上げた本が、姜尚中(カサヅン)でありました。「悩むこと生きること」との題名の本でありました。これは 2010 年 11 月から約 3 ヶ年にわたり、信濃毎日新聞の夕刊に続けたコラムを単行本に括めたものでありました。

126 編のコラムであります。このまえがきの中で、早稲田大学時代の恩師であった藤原保信先生の影響で、還暦を迎えたのを期に信州を終の棲家(ついのすみか)にすることを決めたとありました。多分、軽井沢あたりであるかも知れません。あちこち聞いて調べましたが、個人情報、とのことでとんとわかりません。(誰かご存知の方は?)

彼は 1950 年、熊本生まれの在日韓国人二世で、日本名を永野鉄男さんと言いまして、現在聖学院大学の全学教授をしている政治学者であります。4 年くらい前まで東大大学院の教授であったことは、ご存知の方も多いと思います。その頃彼は、26 才になる息子を亡くしております。大変非劇的な失い方であり、多分、人生観の変るようなショックであったと思われます。東大教授も、マスコミ知名転も、全部かなぐり捨てて、息子の死と向い合うことにしたとありました。北欧へ流転的な旅に出たりして、立ち直るのに 1 年間くらいかか

ったようです。

時代の寵児(ちょうじ)的であった彼は、これ以後、テレビ等の表舞台から消えてしまいました。多分、この頃から信州に移り住み、文筆業的な仕事に専念したのだと思います。「悩む力」「心」「母 - オモニ -」等、内面的な文章も多く出ています。しかし、彼の思いの中には、もっと大きな望願的な想いがあり、コラムの中でも書いていますが「朝鮮半島が一つになる日を待っている」であります。歌にもありますが、北南に流れるイムジン川の流れを、北も南もなく、肩を組み合って、眺める日が来て欲しい。本当にこの国を二つに分けたのは誰、どうして。私も同じ想いで、これからも願って行きたいと思ひます。以上本日のご挨拶と致します。

### 【幹事報告】 清水良英 幹事

1. 2014 ~ 15 年度 中川博司ガバナーより 2014 ~ 15 年度 RI テーマの報告  
「ロータリーに輝きを」

### 2. 例会変更

小諸 RC 2 月 12 日(水) 振替休会  
定刻受付なし

### 本日の配布物

週報 1215, 1216 号、理事会報告

### 委員会報告

奉仕プロジェクト委員会 清水泰男委員長  
~ 「書き損じはがきキャンペーン」のお願い ~

### ラッキー賞

NO. 2 渡辺 文夫 君

### ニコ BOX 桑原邦夫 委員

小林秋生君	佐久長聖高校バスケット部の上田先生が来訪くださいました。本日の卓話宜しくお願ひします。
小池平一郎君	26 日に第 6 回邦楽のつどいを開催いたしました。盛会でありがとうございました。

橋詰希望君	佐久長聖高校バスケット部上田先生、お忙しいところ卓話に来ていただきありがとうございます。	清水泰男君	今年頂いた年賀八ガキで“馬鹿当たり”しました。
前田博志君	神津さん、ご退院おめでとう！	渡辺文夫君	佐久長聖高校の上田先生のお話しが楽しみです。

次週のプログラム：世界理解月間/R財団・米山委員会 / 次々週のプログラム：法定休日のため休会

【出席報告】 中河 邦夫 委員

	会員数	出席	M・U	欠席	出席率
本日 1月28日	24	22	事前0名	2	90.91%
前々回 1月14日	24	21	事後1名	2	90.91%

## 【本日のプログラム】 『14度目の挑戦！念ずれば花開く』

【講師】 佐久長聖高校バスケット部 顧問 上田伸郎様

### 14度目の挑戦＜念ずれば花開く＞

全国高校総体(インターハイ) 決勝8戦全敗  
ウインターカップ 予選 決勝5戦全敗  
6戦目にして初勝利初優勝

＜決勝カード＞

インターハイ 長野吉田 1回 東海大三 7回  
ウインターカップ 長野吉田 1回 東海大三 4回  
(バスケットボールは夏・冬と全国大会が開催され年2回 県予選が開催されます)

25年度決勝戦

対戦は、東海大三 67 - 71 佐久長聖  
12月に行われたウインター・カップ2013 初出場

今回3年計画で一から見直しをしました。要因として1つ目は寮生活の運営に携わったこと、野球部 前監督 中村良隆先生がきっかけを作っていたこと。

寮生活はただ単に寝泊りするものではない。生活面から精神的要素を鍛えるもの。甲子園の名将と言われる先生の指導の一環である大切な部分であることに気付かされたことと**観察力を養えたこと(人づくり=チームづくり)・学習をさせる意義。**

2つ目は 前駅伝部監督 両角速先生(現東海大学 駅伝部監督)の指導理念。

先生の講演の中で必ずといって出る言葉は「生活力向上なくして、競技力向上はありえない」というものです。チームを育て上げるには重要な部分であると感じ、自分なりに考え出した結論は、礼節を重んじ、忍耐強く、誠実な人間であれ(創設者市川千晃 先生の教育理念)を生活の場で生かされれば生活力は向上すると確信した。

この両先生の指導を参考にしながら、**実践指導**して精神的にも身体的にも学習・クラブ活動に直



結する要素が多々あること、一緒に生活して改めて学べたことが財産になった。やはり、**実践・体験** **することの大切さ**、指導書には書かれていないことの発見、**小さな奇跡・少しの感動の積み重ね**が、**大きなチャンスを掴むこと**につながるこ

と **生徒と共に生活したからこそ、再確認できた。**

3つ目は、大会前に職員会議の席で、教頭先生から「**もっと、生徒に考えさせなさい**」、手取り足取りの指導・導き方では結果は出づらいとの投げかけ。この3つの要素がなければ、決して今回の優勝はあり得ないと思っています。

・生活の場で心身を鍛えること 生活力を向上させること・考えさせることの指導を基盤とし、さらに次の目標(全国で勝つ)に向かって指導している。全国で勝つには今以上のことを実践し、生徒も指導者も考え、もがき、苦しみ **過程を大切**にし、挑戦したいと思います。

・高校は何をすべきところなのか **学習・生活習慣の確立 進路 クラブ活動**の優先順位の状況を崩すことのないようにする。

・こうしたい、このようになりたい、達成したいという願いは日々の積み重ねと強い気持ちがあれば長短はありますが、思いは実るはずです。

最後に「**念ずれば 花開く**」という言葉で締めたいと思います。